

---

# 約束

あい

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

約束

### 【Nコード】

N5299Q

### 【作者名】

あい

### 【あらすじ】

静かに雪が降り積もる頃。

十年もの長い間を空け、

青年とその親友の約束は果たせたのか・・・。

## （前書き）

この作品は、約一年前に書いたものです。

以前、ズラえもんさんが投稿していましたが、

私の作品だから・・・ということでした。ただ、

一応、所々変わっていたりします。

冬の雪が降り積もる頃・・・  
プルプルプルプル

「はい。こちら未来動物病院ですが、ご用件はなんでしょう。」

「森獣神社の近くの木の下で、犬が倒れているんです。いますぐ来てください。」

「はい。わかりました。今すぐ向かいます。」

森獣神社の近くへ行くと、人がぼくに手を振っている。走っていくと、見覚えのある茶色い柴犬が雪をかぶって倒れていた。

「ま、まさかタロウ?」

その犬の背中を見ると、のような形のマークがあった。ぼくは確信した、こいつは昔飼っていたタロウだと。

ぼくは衛。昨日で十歳になったんだ。そしてボクの飼い犬タロウも昨日で五歳になった。そう、ぼくとタロウは誕生日が一緒なんだ。遊ぶときも一緒、お出かけするときも一緒、ぼくとタロウはいつも一緒にいた。

タロウの背中のようなマークは、たまにぼくにラッキーなことを起こすんだ。

だからタロウはぼくのラッキー犬。

「タロウ！ お母さんのセーターをこんなにボロボロにして。」

ある日ぼくが勉強をしていると、太郎は暇だったんだろ。お母さんのセーターをボロボロにしたんだ。運の悪いことにそのセーターは先週買ってきた、まだ一度も着ていないものだった。だからお母さんはもうかんかん。

「衛、タロウを捨ててきて。」

「そ、そんな、タロウを捨てるなんて嫌だよ。」

とは言えず、しびしびタロウを連れて、森獣神社の近くの原っぱの木の下へ来た。ここはタロウとよく遊んだ場所だ。

そして、タロウとある約束をした。

「十年後のぼくの誕生日、いや、ぼく達の誕生日にこの木の下で会おう。」

タロウは分かったのか、分からないのか分からないけど、ぼくにはタロウがうなずいた様に見えた。

「バイバイ。」

そう言っただけは走った。振り返ると、タロウは座ったままずっとぼくを見つめていた。

今日は二月十四日。ぼくとタロウの誕生日は昨日・・・タロウはあの約束を覚えていたんだ！

「ごめんタロウ。」

ぼくがあの時ちゃんと嫌だと言っていたらタロウはこんな目に合わなかったんだ。」

いつの間にかボクの頬には、大粒の涙が流れていた。

「本当にごめん。タロウ。ぼくがあの約束を忘れていなければ……」

「ぼくが悪いんだ。ごめんなさい。ごめんなさい。」

ぼくがそう心の中で謝り続けていたとき。

『ワンワン』

森獣神社の後ろからタロウの鳴き声が聞こえた。

走っていくと茶色い柴犬の子犬がこちらを見てニコニコ笑いながら座っている。

『ワンワン』

また聞こえた。

子犬の周りを見てみると、太郎と同じ茶色の柴犬のメスが座っていた。

『キャンキャン』

子犬が柴犬のもとへ走っていった。

よく見ると、その子犬の背中に星のような形のマークがあった。

「ま、まさかタロウの家族、家族なんだ。」

ぼくがタロウを殺したんだ。タロウの家族は幸せにしよう……よし、この子達を飼おう。

「君の名前は、幸だ。そして、君の名前は、コタロウだ。」

子犬のコタロウと、柴犬のメスの幸は、とても気に入ったらしく、しっぽをふりながらニコニコと笑っている。

「タロウの家族は、絶対にぼくが幸せにする。今度は捨てたりなんかしないからな。」  
『ワオ〜ン』

しんしんと静かに雪が降る中、遠くの方からタロウの鳴き声が聞こえたような気がした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5299q/>

---

約束

2011年10月8日09時39分発行